

平成 27 年度 富士山における外国人登山者動向把握業務 調査結果概要

I. 調査背景目的

富士箱根伊豆国立公園の富士山には、外国人登山者が多く訪れており、観光庁等による訪日旅行者増加の取組や、東京オリンピックの開催に向けて、今後も増加することが予想される。

こうした状況の中、外国人登山者のトラブル等が起きていることから富士登山や国立公園に関する情報が外国人登山者に十分に伝達されていない可能性がある。

本調査は、富士山五合目以上の登山者を対象として、外国人登山者の人数を推定し、ヒアリング調査等により、外国人登山者の属性、意識、意向等を把握することにより、富士山の外国人登山者に対する情報提供のあり方や外国人登山者の満足度向上のために必要な方策を検討する基礎資料とする。

II. 調査方法

(1) 外国人登山者数等調査

8 月下旬土休日・平日の 2 日間ずつ、計 4 日間のそれぞれ 8:00~13:00 富士山の登山道（吉田口、富士宮口）において、全下山者を対象に現地調査（カウント、聞き取り）を行い、外国人登山者の割合を調査した。

(2) 外国人登山者の動向・意識の調査

富士山を訪問する外国人登山者の属性や意向等を把握するため、登山者に対する対面式アンケート調査を実施した。（スバルライン 5 合目、富士宮 5 合目で（1）と同じ日に実施）

(3) 山小屋等施設の現状・意向の調査

富士山を訪問する外国人登山者を受け入れる立場の事業者から、アンケート調査等を実施した。※本結果概要では山小屋に限定して分析したものを掲載。

III. 調査結果概要

(1) 外国人登山者数等調査

① 外国人登山者の割合について

- 調査日における土休日の外国人率は吉田ルートが 21%、富士宮ルートが 12%（調査実施日 2 日間（8 月下旬）の平均）
- 調査日における平日の外国人率は吉田ルートが 28%、富士宮ルートが 10%（調査実施日 2 日間（8 月下旬）の平均）

② 外国人登山者の居住地について

- 回答者の居住地は国内在住 35%、海外在住 65%

③ 外国人登山者の国籍エリア別の割合について

- 吉田、富士宮ともに国籍エリア別の割合では、欧米系 40%、東アジア系 39%、東南アジア系 11%

(2) 外国人登山者の動向・意識の調査

① 富士登山について

- ・ 山小屋へ宿泊した人は 65%。
- ・ 山頂へ到達した人は 77%。
- ・ 日の出を見た人は 75%、そのうち 71%が山頂で鑑賞しており、77%の人が「とても満足」と回答している。
- ・ グループ構成は「友人」が 45%で最も多い。

② 富士登山への期待について

- ・ 富士登山で最も期待したことは「雄大な自然を眺める」こと、次いで「新たな自然や経験との出会い」、「原始的な自然に触れる」で自然に対する期待が高い。

③ 登山中の「困ったこと」について

- ・ 登山中にトラブルには至らなかつたものの「ヒヤリ」としたことがある人は全体の 37%。具体的な内容は「体調不良」や「体力不足」等、登山者自身の体力面に関する内容が多い。
- ・ 登山中に起きたトラブルがあった人は全体の 33%。具体的な内容は「病気、体調不良」。トラブルが起きた原因は「体力不足」や「寝不足」等、登山者自身の体力面に関する内容が多い。

④ 富士山への理解

- ・ 富士山に関する理解度・認知度については、以下の項目が低い。
 - 「国立公園内にある」 (43%)
 - 「トイレ使用は協力金とは別にチップが必要である」 (60%)
 - 「山小屋は事前予約が必要である」 (58%)
 - 「登山道が 4 つある」 (53%)
 - 「登山道ごとに標識が色分けされている」 (45%)
 - 「休息をせず夜通し登る登山（弾丸登山）の自粛が求められている」 (41%)
 - 「富士山保全協力金（1000 円）が任意で求められる」 (40%)
 - 「植物採取が禁止されている」 (59%)
 - 「溶岩採取が禁止されている」 (52%)

(3) 山小屋等施設の現状・意向の調査

① 外国人客の利用の状況について

- ・ 昨年と比較した際の外国人客数は「増えた」と回答した山小屋が最も多く 72%。

② 外国人客対応で困ったことについて

- ・ 外国人客とのトラブルが「ある」と回答した山小屋は 66%。
- ・ 山小屋において外国人対応で困ったことは「マナーが悪かった」 (69%) 「外国語が理解できなかつた」 (62%) の順に多い。

③ 今後の外国人客の受入について

- ・ 山小屋で実施している外国人客受入対策は「施設内の表示を多言語化」 (63%) と最も多い。

IV 調査手法及び結果（詳細）

1. 外国人登山者数等調査

1.1. 調査の概要

● 調査対象

- 外国人下山者（下山者を対象とし、五合目付近の散策者は対象外とする。）

● 調査時期、時間帯

- 本調査では調査日を土日祝日と平日の各 2 日間を設定し、合計 4 日間の調査結果をもとに富士山における国籍別外国人登山者数の推定を行った。

第 1 回調査：8 月 22 日（土）、23 日（日） 両日とも 8:00～13:00

第 2 回調査：8 月 26 日（水）、27 日（木） 両日とも 8:00～13:00

● 調査日の天候

	8月22日（土）	8月23日（日）	8月26日（水）	8月27日（木）
吉田	晴れ時々曇り	曇り時々雨	曇り時々晴れ	曇り時々雨
富士宮	曇り時々晴れ	曇り	曇り	曇り時々雨

● 調査の方法（詳細は参照）

- 外国人割合を把握する「A. カウント調査」と国籍等を把握する「B. 聞き取り調査」を実施した。

A. カウント調査

- 「下山者全員」と「外国人と思われる下山者」の 2 種の人数をカウントする（全数調査）。なお、「外国人と思われる下山者」については全員に声掛けを行い、外国人と判断できる場合にカウントした。

B. 聞き取り調査

- 明らかに日本人であると判断できる場合を除き、下山者全員に声掛けを行い、調査協力を承諾した外国人登山者に対して、「国籍」「居住地（日本／海外）」「一緒に登山している人の人数」「何合目まで登ったか」の 4 点を聞き取った。

● 留意点

- 今回の調査時間を～13:00 としたため、13:00 以降の日帰り登山者等は含まれていない。

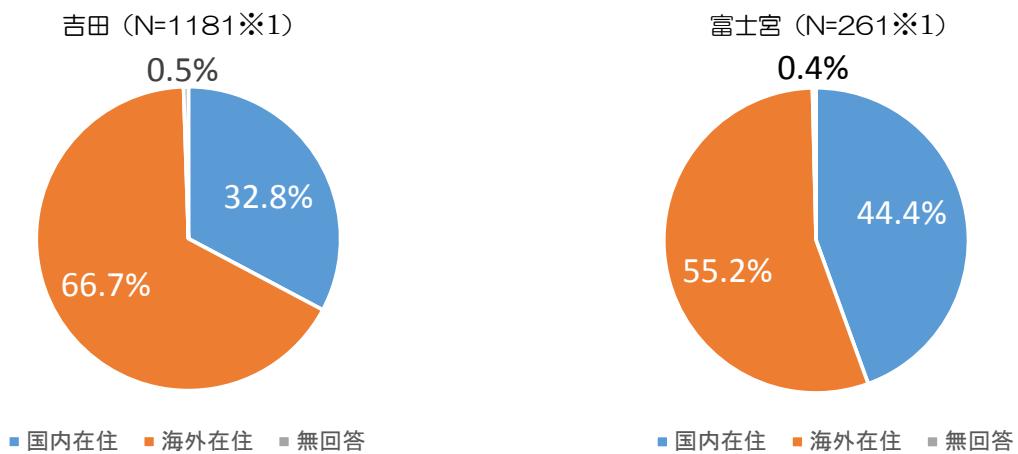
1.2. 調査結果

(1) A. カウント調査の結果

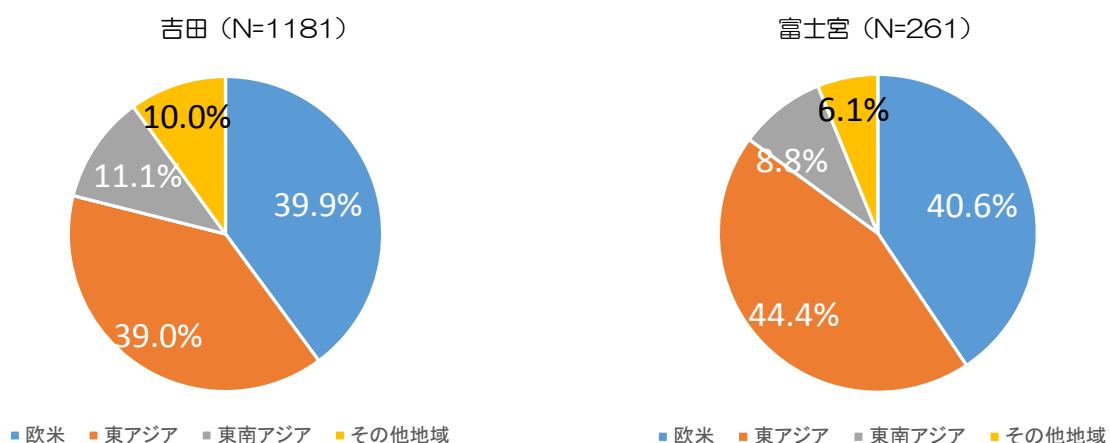
	吉田			富士宮		
	全下山者数	外国人下山者数	外国人率	全下山者数	外国人下山者数	外国人率
土休日	4,582	969	21.1%	1,796	214	11.9%
8月22日	1,729	356	20.6%	637	66	10.4%
8月23日	2,853	613	21.5%	1,159	148	12.8%
平日	1,694	475	28.0%	547	55	10.1%
8月26日	686	218	31.8%	271	11	4.1%
8月27日	1,008	257	25.5%	276	44	15.9%

(2) B. 聞きとり調査の結果

① 外国人登山者の居住地について



② 国籍エリア別の割合



※国籍エリアについては以下の通り分類。

欧米	アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、オランダ、カナダ、クロアチア、サンマリノ、スイス、スウェーデン、スコットランド、スペイン、スロバキア、セルビア、チェコ、デンマーク、ドイツ、ハンガリー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、リトアニア、ルクセンブルク、ロシア
東アジア	韓国、中国、香港、マカオ、台湾
東南アジア	インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア
その他	アフガニスタン、アルゼンチン、イスラエル、イラク、インド、オーストラリア、サウジアラビア、スリランカ、ニュージーランド、バングラデシュ、ブラジル、ペルー、南アフリカ、メキシコ

● 海外在住外国人国内在住外国人の国籍

合計(海外在住+国内在住)

1 台湾	230
2 アメリカ	207
3 中国	203
4 フランス	100
5 韓国	85
6 ドイツ	59
7 香港	55
8 イギリス	43
9 ベトナム	46
10 インド	38

海外在住外国人

1 台湾	213
2 アメリカ	106
3 フランス	92
4 韓国	61
5 中国	58
6 香港	53
7 ドイツ	44
8 イギリス	35
9 スペイン	29
10 オーストラリア	27
10 シンガポール	27

国内在住外国人

1 中国	145
2 アメリカ	101
3 インド	26
3 ベトナム	26
5 韓国	24
6 インドネシア	19
7 台湾	17
7 ブラジル	17
9 ドイツ	15
10 タイ	13

③ 海外在住外国人と国内在住外国人の国籍※1 (ルート別)

合計(海外在住+国内在住)

1 台湾※2	222
2 アメリカ	156
3 中国	174
4 フランス	95
5 ドイツ	51
5 香港	51
7 ベトナム	40
8 イギリス	35
9 オーストラリア	32
10 インド	30

海外在住外国人

1 台湾	209
2 アメリカ	88
3 フランス	87
4 香港	51
5 中国	47
6 ドイツ	38
7 イギリス	28
8 シンガポール	26
9 オーストラリア	25
10 スペイン	23

国内在住外国人

1 中国	127
2 アメリカ	68
3 ベトナム	22
4 インド	18
5 ブラジル	17
6 台湾	13
6 ドイツ	13
8 インドネシア	9
8 カナダ	9
8 韓国	9

合計(海外在住+国内在住)

1 韓国※2	74
2 アメリカ	51
3 中国	29
4 インドネシア	10
5 イギリス	8
5 インド	8
5 台湾	8
5 ドイツ	8
5 ポーランド	8
10 スペイン	6
10 ベトナム	6

海外在住外国人

1 韓国	59
2 アメリカ	18
3 中国	11
4 イギリス	7
5 スペイン	6
5 ドイツ	6
5 ポーランド	6
8 スイス	5
8 フランス	5
10 台湾	4

国内在住外国人

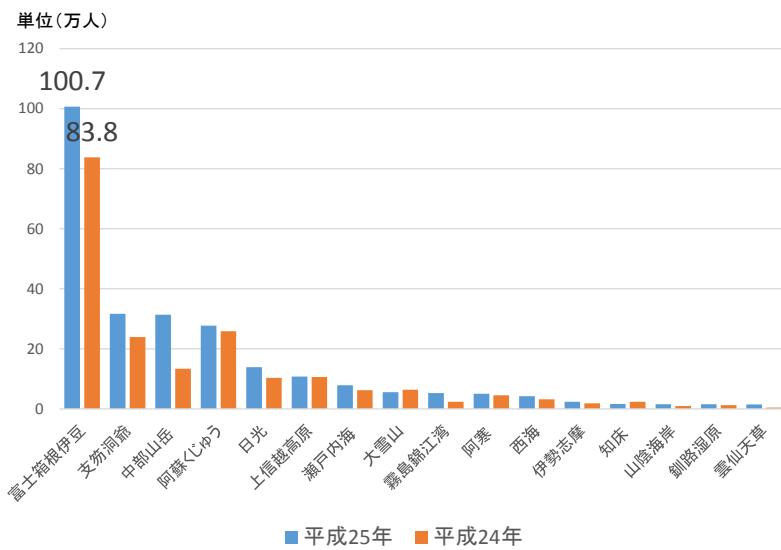
1 アメリカ	33
2 中国	18
3 韓国	15
4 インドネシア	10
5 インド	8
6 タイ	5
7 台湾	4
7 ベトナム	4
9 ニュージーランド	3
10 イタリア	2
10 カナダ	2
10 ドイツ	2
10 香港	2
10 ポーランド	2
10 ルーマニア	2

※1：登山者の総国籍数は、吉田口：50 カ国、富士宮：25 カ国

※2：吉田では（22 日）に台湾のツアー客を、富士宮では（23 日、27 日）に韓国のツアー客を確認。

～参考～富士山周辺の地域の外国人旅行者数

- 富士箱根伊豆国立公園…100.7万人（H25）、83.8万人（H24）（※1）



	平成25年	平成24年
富士箱根伊豆	100.7	83.8
支笏洞爺	31.7	24
中都山岳	31.4	13.4
阿蘇くじゅう	27.8	25.9
日光	13.9	10.4
上信越高原	10.8	10.7
瀬戸内海	7.9	6.3
大雪山	5.6	6.4
霧島錦江湾	5.3	2.4
阿寒	5.1	4.6
西海	4.3	3.2
伊勢志摩	2.4	1.9
知床	1.7	2.4
山陰海岸	1.6	1
鉢路湿原	1.6	1.3
雲仙天草	1.5	0.5

推計の方法（※1）

観光庁が実施している「訪日外国人消費動向調査」を活用し、国立公園毎の訪日外国人利用者数の推計を行った。本推計は、国立公園を訪れた訪日外国人旅行者の正確なボリュームを把握するものではないが、継続的・時系列的なボリュームの増減の把握と、同年の他地域との相対的ボリュームの比較については可能。

推計の手順（※1）

（ステップ1）：

訪日外国人消費動向調査の「訪問地選択肢コードリスト（※2）」の内、国立公園内の観光地を抽出する。

（ステップ2）：

訪日外国人消費動向データの「訪問地」を尋ねた設問で、ステップ1で抽出した国立公園内の観光地を回答しているサンプルを集計し、国立公園内に位置する訪問地毎の選択率（訪問率）を算出する。

（ステップ3）：

訪日外国人旅行者数（日本政府観光局（JNTO）発表データ）の総数に上記の選択率（訪問率）を乗じ、訪日外国人利用者数（概数）を推計する。

※1：出典は「平成25年度国立公園等魅力向上プロジェクト業務」（環境省）

※2：訪日外国人消費動向調査では、「訪問地」はフリーアンサー形式（タッチ式パネルPCを用いた調査票の場合は予め選択肢を提示）での回答を求めており、入力時に訪問地をカテゴリー化してコードを振っている。平成25年度時点での訪問地コード数は328箇所。内、都道府県や地方レベルでコード化しているものを除くと、観光地数は273箇所。

2. 外国人登山者の動向・意識の調査

2.1. 調査の概要

● 調査の目的

- 富士山を登山する外国人の満足度向上を目的として、富士山における外国人登山者の属性、意識、意向等を把握した。

● 調査日時・時間帯

- 8月22日（土）、8月23日（日）、8月26日（水）、8月27日（木）
- 調査実施時間は、いずれも 8:00～15:00※
※調査時間の設定上、15:00以降の下山者は含まれない

● 調査日の天候

	8月22日（土）	8月23日（日）	8月26日（水）	8月27日（木）
吉田	晴れ時々曇り	曇り時々雨	曇り時々晴れ	曇り時々雨
富士宮	曇り時々晴れ	曇り	曇り	曇り時々雨

● 調査対象

- 外国人下山者

● 調査地点

- 吉田ルート（五合目広場付近）
- 富士宮ルート（五合目レストハウス付近）

● 配布回収方法

- 調査員による聞き取り、ただし、状況に応じて回答者による記入も併用

● 調査項目

- 富士登山の概要、富士登山の理由、富士登山における期待と満足度、富士登山における障害事項、富士登山における認知・理解、回答者属性 等

● 回収数

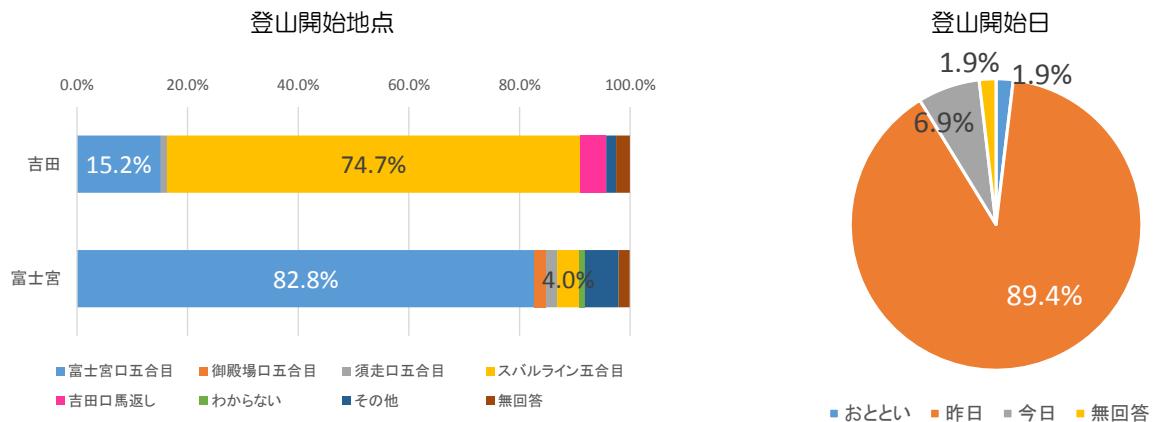
- 回収数は 389 票（英語 252 票、簡体字 42 票、繁体字 81 票、日本語 14 票）となった。

2.2. 調査結果

(1) 富士登山について

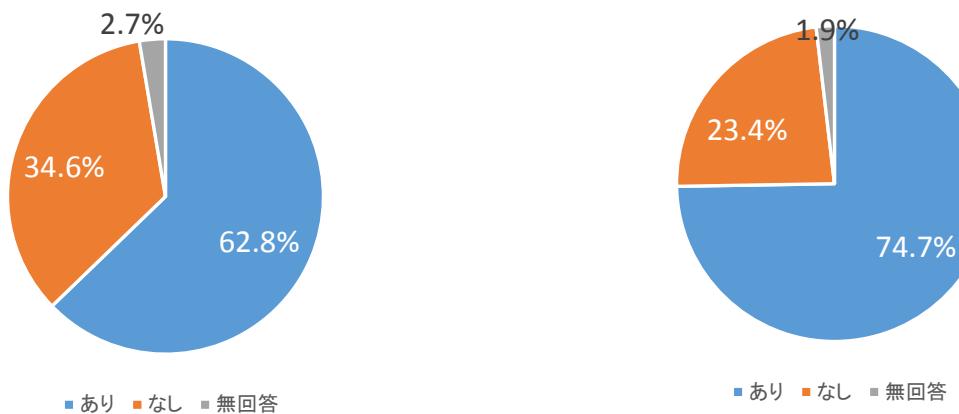
① 登山開始地点・開始日

- 登山開始地点と下山地点が異なる人の割合は吉田 25%、富士宮 17%、登山開始日は 89%が「昨日」



② 山小屋への宿泊の有無

- 山小屋への宿泊は 63%。

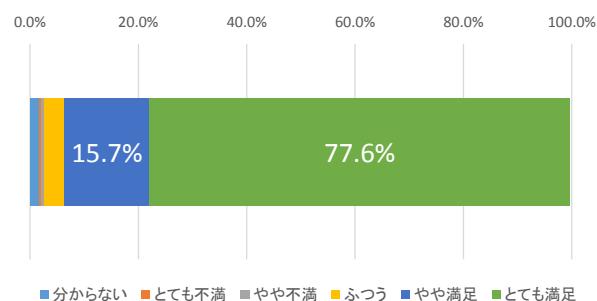


④ 日の出の有無・場所・満足度

- 日の出を見た人は 75%、日の出を見た場所は山頂が 71%



日の出を見た人の満足度（得点化した際の平均 4.47）



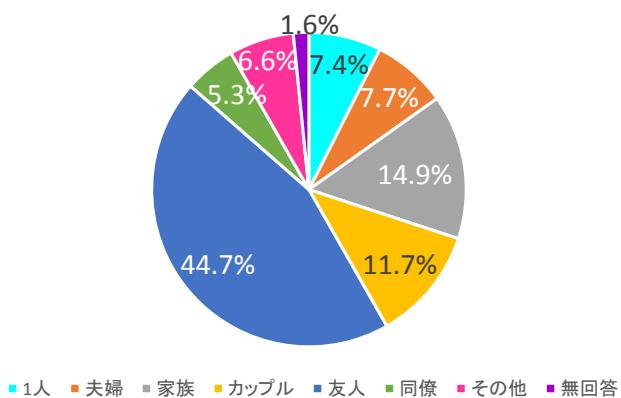
※得点化について

「とても不満」(1点)、「やや不満」(2点)、「ふつう」(3点)、「やや満足」(4点)、「とても満足」(5点)とし、得点を算出。

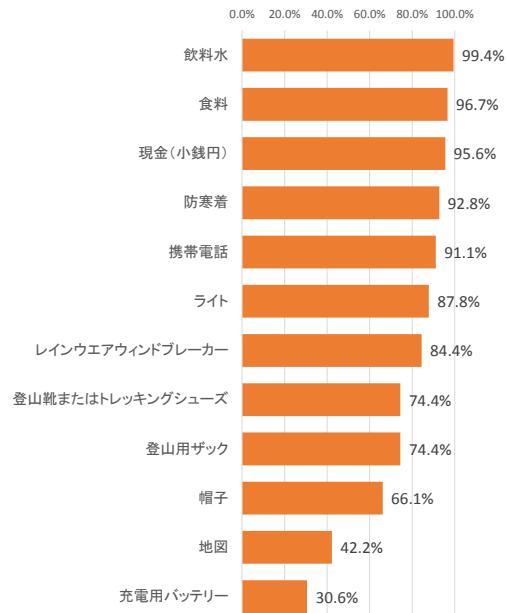
⑤ グループ構成・装備

- グループ構成は「友人」が最も多く45%程度。
- 装備は「飲料水」「食料」「現金」「防寒着」「携帯電話」が90%程度。

グループ構成

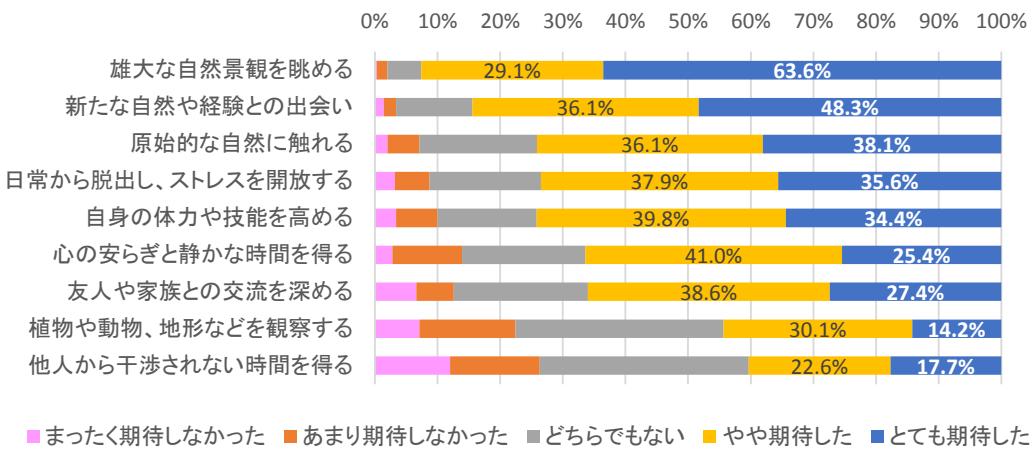


装備



(2) 富士登山における期待と満足度

① 期待したこと※



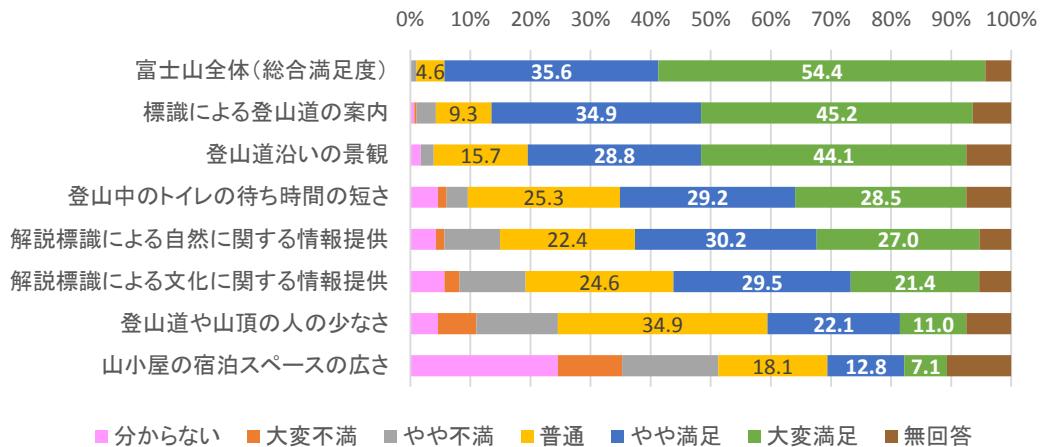
	平均	標準偏差
雄大な自然景観を眺める	4.54	.70
新たな自然や経験との出会い	4.28	.86
原始的な自然に触れる	4.03	.98
日常から脱出し、ストレスを開放する	3.97	1.02
自身の体力や技能を高める	3.95	1.04
心の安らぎと静かな時間を得る	3.75	1.04
友人や家族との交流を深める	3.74	1.12
植物や動物、地形などを観察する	3.29	1.11
他人から干渉されない時間を得る	3.20	1.23

※「満足度」「期待度」得点化について

「まったく期待しなかった／大変不満」(1点)、「あまり期待しなかった／やや不満」(2点)、「どちらでもない／普通」(3点)、「やや期待した／やや満足」(4点)、「とても期待した／大変満足」(5点)とし、得点を算出。

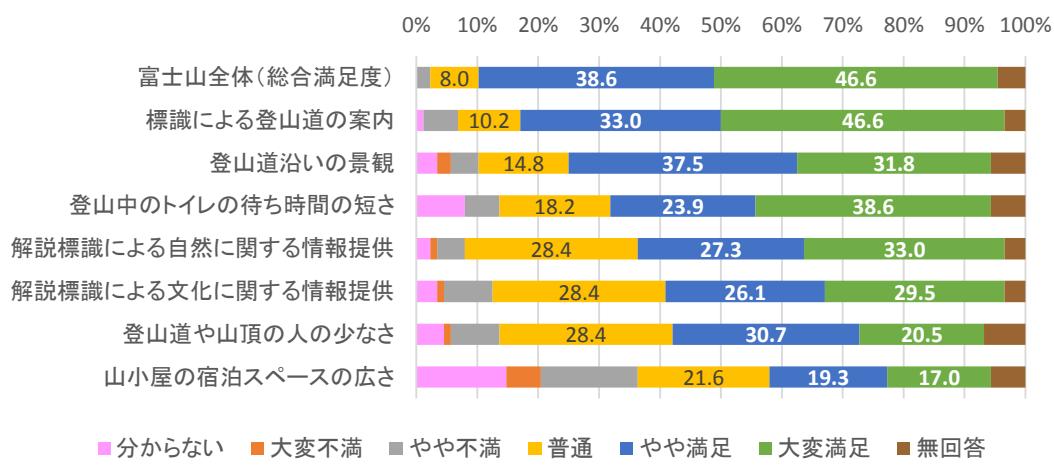
② 満足度※

(日の出を見た人)



項目	平均	標準偏差
富士山全体 (総合満足度)	4.50	.644
標識による登山道の案内	4.31	.817
登山道沿いの景観	4.27	.827
登山中のトイレの待ち時間の短さ	3.91	.956
解説標識による自然に関する情報提供	3.80	1.031
解説標識による文化に関する情報提供	3.63	1.064
登山道や山頂の人の少なさ	3.20	1.078
山小屋の宿泊スペースの広さ	2.84	1.236

(日の出を見ていない人)

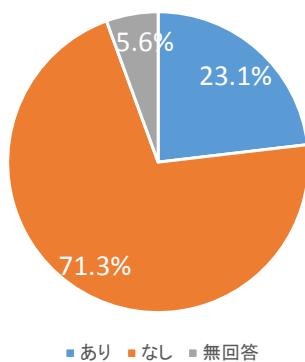


項目	平均	標準偏差
富士山全体 (総合満足度)	4.36	.739
標識による登山道の案内	4.26	.880
登山道沿いの景観	4.01	.974
登山中のトイレの待ち時間の短さ	4.11	.960
解説標識による自然に関する情報提供	3.92	.978
解説標識による文化に関する情報提供	3.80	1.024
登山道や山頂の人の少なさ	3.69	.971
山小屋の宿泊スペースの広さ	3.33	1.224

(3) 登山中に困ったことについて

① 登山前に困ったこと

- 登山前に困ったことがある人は全体の 23%。



(登山前に困ったことの具体的な内容)

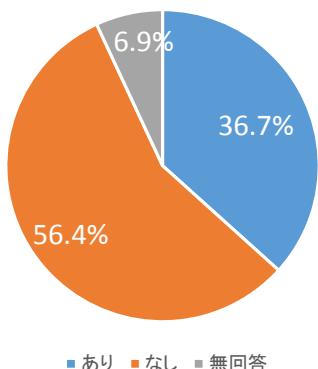
- 困難さが分からず、荷物をたくさん持参した (中国・吉田)
- 登山に必要な時間や地形を知らなかった。(台湾・吉田)
- 山小屋の事前予約がよくわからなかった (スペイン・吉田)
- 大阪からの移動方法がよくわからなかった (ドイツ・吉田)
- 体力が持つか心配だった (台湾・吉田)

② 登山中に「ヒヤリ」としたこと※

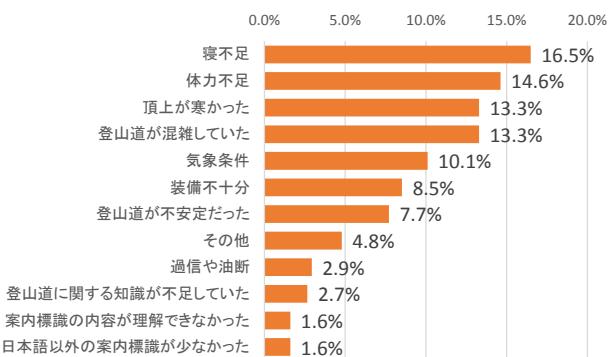
※実際のトラブルまでは至らなかったものの、危険を感じたこと

- 登山中に「ヒヤリ」としたことがある人は全体の 37%。
- 「ヒヤリ」の主な原因は「寝不足」が最も多い。

「ヒヤリ」の有無



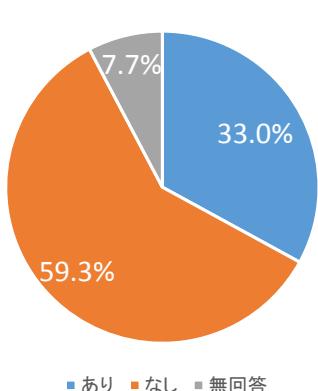
「ヒヤリの原因」



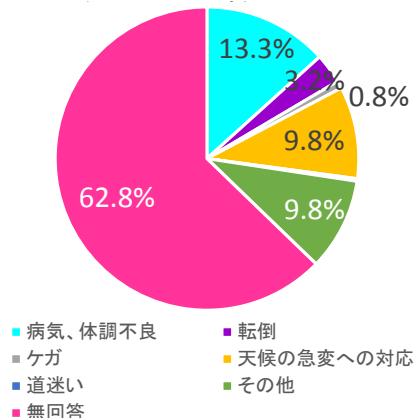
③ 登山中に起きたトラブル

- 登山中にトラブルがあった人は全体の 33%。
- トラブルの内容で最も多いのは「病気、体調不良」で全体の 13%。
- トラブルの原因で最も多いは「体力不足」(17%)。

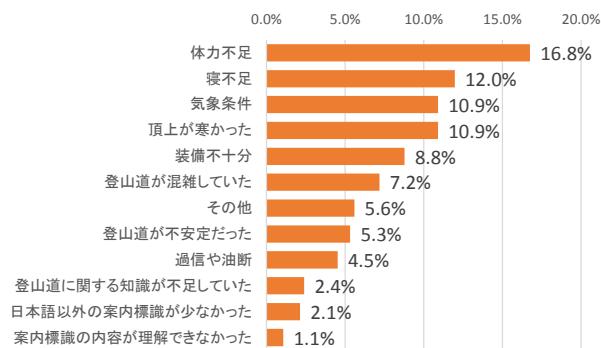
トラブルの有無



トラブルの内容



トラブルの原因

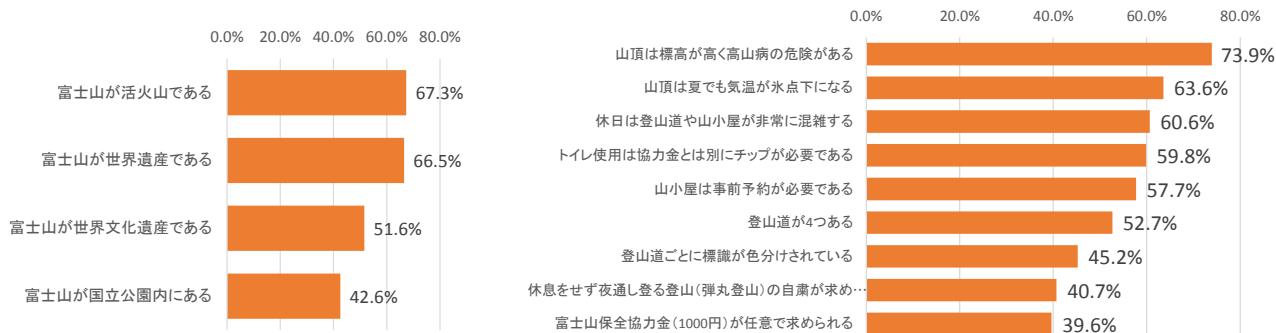


(4) 富士山への理解

① 登山前に知っていた内容

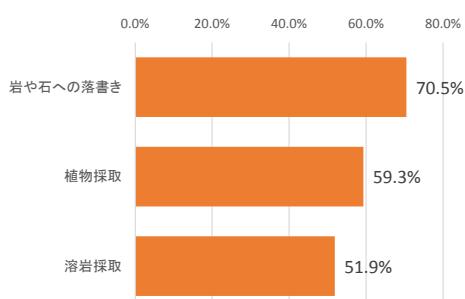
- 富士山全体の情報で登山前に知っていた内容については「富士山が世界「文化」遺産である」(52%)、「富士山が国立公園内にある」(43%)と認知度が低い結果となっている。
- 富士山での登山において以下の項目についての認知度が低い。
 - 「トイレ使用は協力金とは別にチップが必要である」(60%)
 - 「山小屋は事前予約が必要である」(58%)
 - 「登山道が4つある」(53%)
 - 「登山道ごとに標識が色分けされている」(45%)
 - 「休息をせず夜通し登る登山(弾丸登山)の自粛が求められている」(41%)
 - 「富士山保全協力金(1000円)が任意で求められる」(40%)

富士山全体 富士山での登山

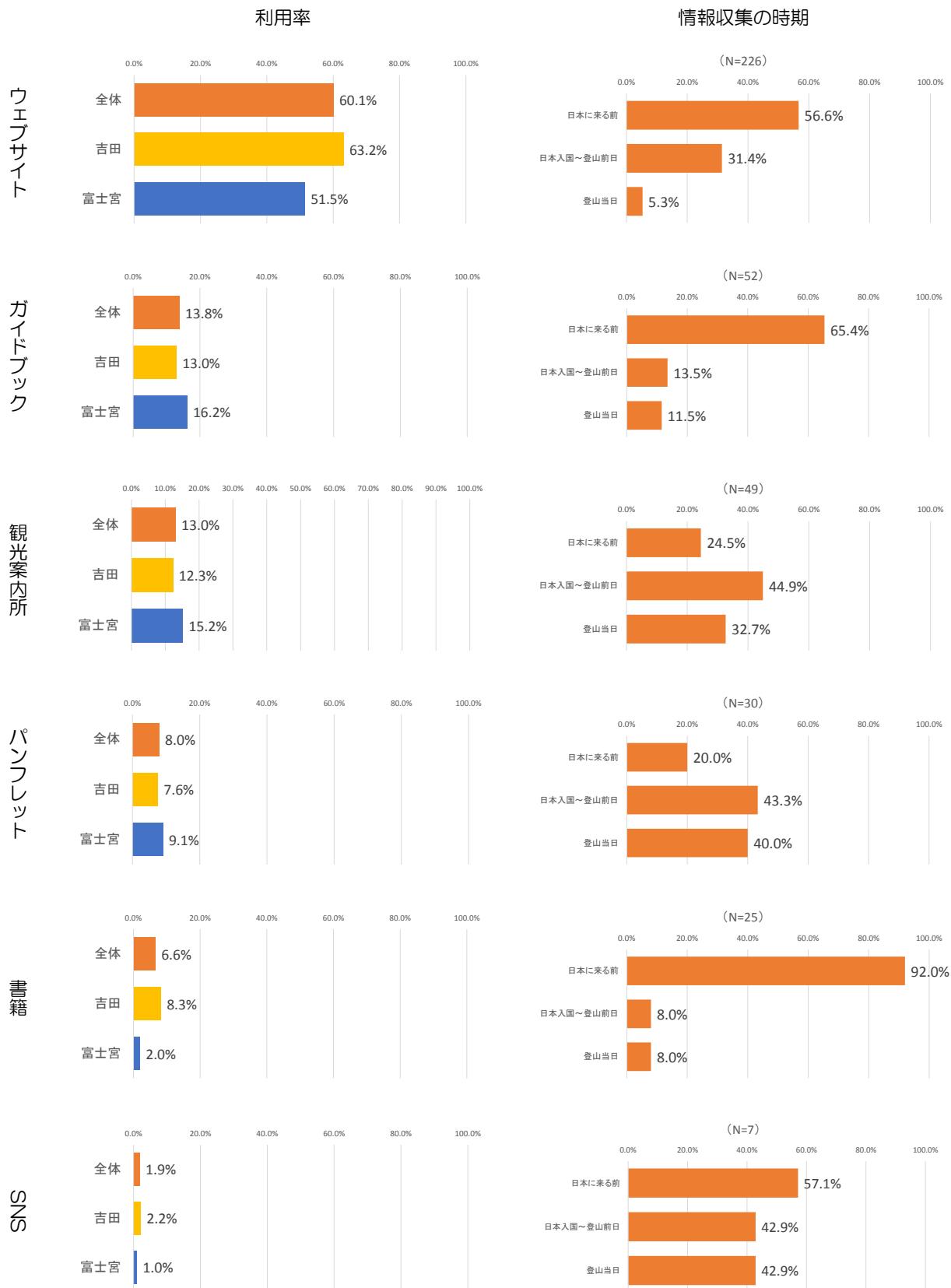


② 禁止されていると思う行為

- 禁止されていると思う行為については「植物採取」(59%)、「溶岩採取」(52%)への認知度が低い。



③ 情報収集源※



※ 「情報収集の時期」については回答者数が少ない場合（例：書籍は N=7、SNS は N=25 等）もあるため、結果参照の際には留意が必要。

3. 山小屋等施設の現状・意向の調査

3.1. 調査の概要

● 調査実施にあたっての基本的な考え方

- ・ 意識把握調査の結果から外国人登山者のニーズや課題を把握した上で、受け入れ側とのミスマッチ等がどの部分に起きているかについて把握する。

● 調査対象

- ・ 回答事業者数：44 件
- ・ 事業者内訳：旅行事業者 4 件、交通機関 2 件、山小屋 29 件、レンタル用品店 2 件、案内所 1 件、ガイド 2 件、安全管理 3 件

※今回の分析結果は山小屋（29 件）のみとしている。他の事業者については分析中。

● ヒアリングの方法

- ・ 対象となる機関に電話またはメールにて調査協力を依頼し、承諾が得られた場合には、郵送にて調査票（ヒアリングシート）を送付後、FAX またはメールによる回答を得た
- ・ ヒアリングシートをもとに、必要に応じて追加での電話や訪問によるヒアリングを実施した。

● 調査時期

- ・ 2015 年 12 月下旬～2016 年 1 月下旬

● ヒアリングの内容

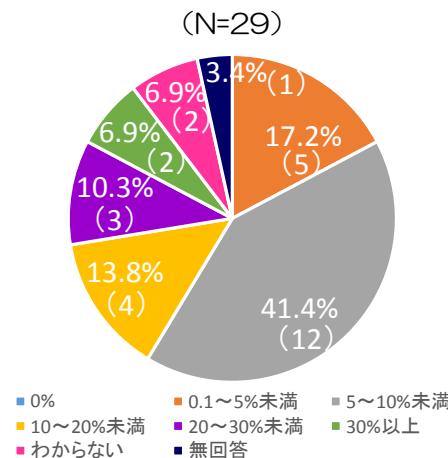
- ・ 利用の状況（2015 年の全利用者数、2015 年の全利用者数に占める外国人の割合、昨年との外国人数の比較、外国人客の国籍 等）
- ・ 外国人対応で困ったこと
- ・ 今後の外国人客の受け入れについて（外国人客の受入意向、実施している受入対策、外国人対応に取り組みたくない理由 等）
- ・ 外国人のトラブルについて（外国人トラブルの有無 等）
- ・ 外国人客が喜んでいる場面や感謝される場面
- ・ トラブルでの具体的な内容と対策

3.2. 調査結果

(1) 外国人客の利用の状況について

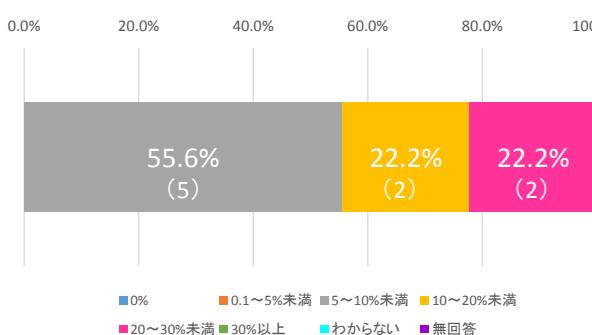
① 2015 年の全利用者に占める外国人の割合

- 外国人の割合は「5~10%未満」が最も多く 41%。

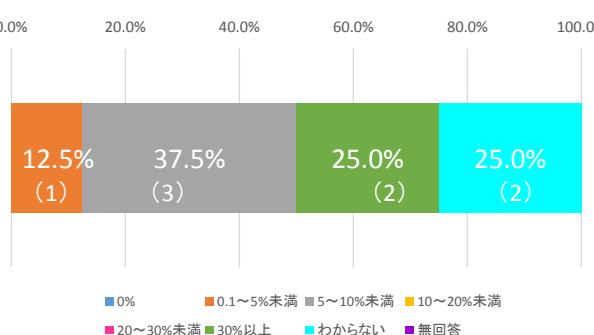


ルート別

吉田 (N=9)



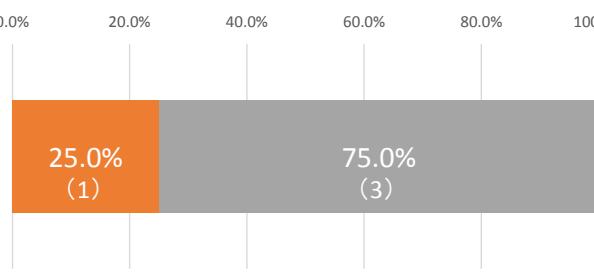
須走 (N=8)



富士宮 (N=8)



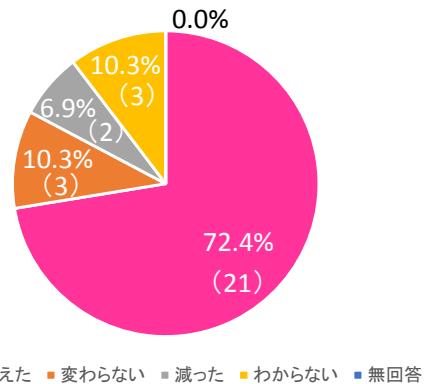
御殿場 (N=4)



② 昨年との外国人数の比較

- ・ 昨年と比較した際の 2015 年の外国人客数は「増えた」が最も多く 72%程度。

(N=29)

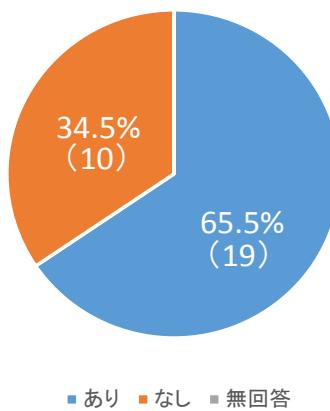


(2) 外国人対応客対応で困ったことについて

① 外国人トラブルの有無

- 外国人トラブルが「ある」と回答したのは全体の 66%

(N=29)

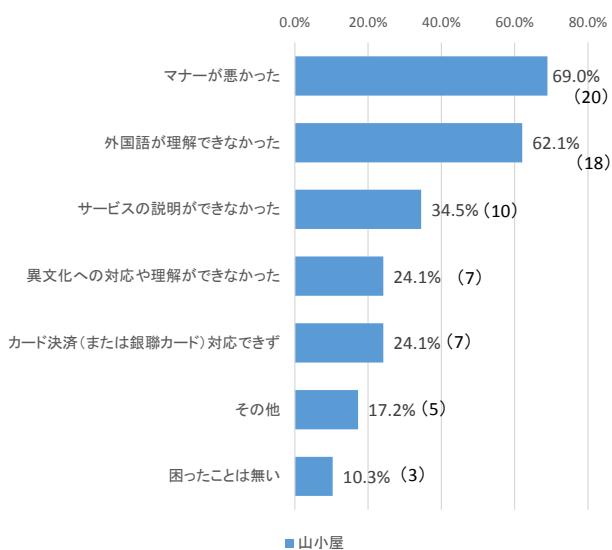


■あり ■なし ■無回答

② 外国人対応で困ったこと

- 外国人対応で困ったことについては「マナーが悪かった」が 69% で最も多い。

(N=29) (複数回答)



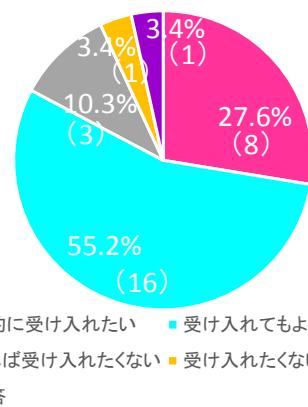
■ 山小屋

(3) 今後の外国人登山者の受け入れについて

① 外国人登山者受け入れ意向について

- 外国人登山者の受入意向は「受け入れてもよい」が 55%と最も多い。

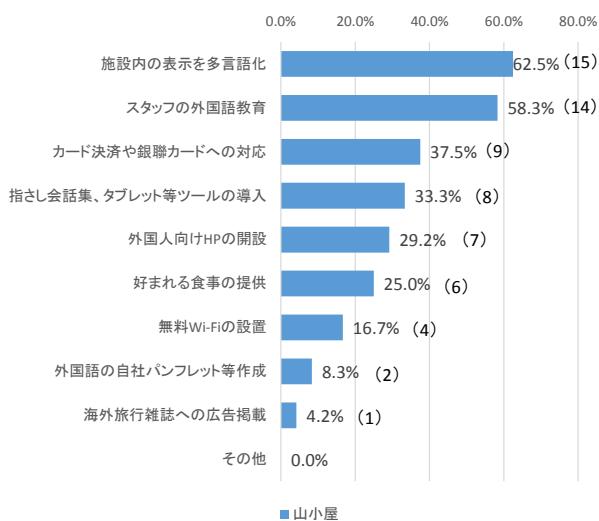
(N=29)



② 実施している受け入れ対策

- 全体では「施設内の表示を多言語化」が 63% 程度と最も多い。

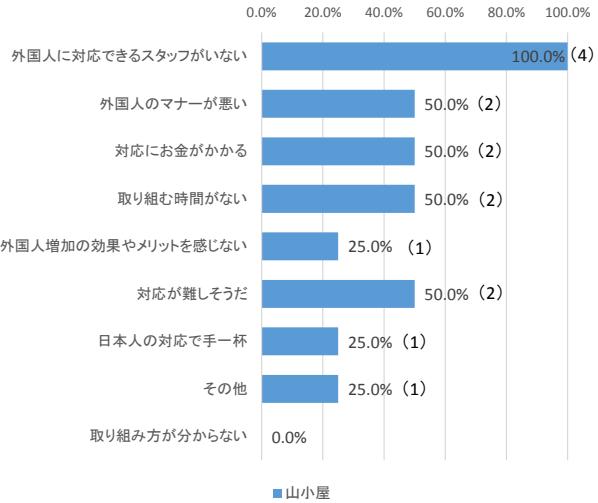
(N=24※) (複数回答)



③ 外国人対応に取り組みたくない理由※

- 外国人
- 対応に取り組みたくない理由は全ての施設で「外国語に対応できるスタッフがいない」と回答。

(N=4※) (複数回答)



※今後の外国人受入意向について「積極的に受け入れたい」「受け入れたい」と回答した施設を対象としている。

※今後の外国人受入意向について「できれば受け入れたくない」「受け入れたくない」と回答した施設を対象としている。